

図書館だより No. 2

平成 25 年 5 月 28 日発行

4月はなかなか気温が安定せず、暖かかったり、寒かったりを繰り返しましたが、5月は初夏らしい爽やかで過ごしやすい気候でしたね。大型連休もあり、また、3月21日にJR東京駅にオープンした日本郵便が初めて手がける商業施設「KITTE(キッテ)」や4月15日に30周年を迎えた東京ディズニーランドなど注目のスポットでのイベントが多くあったこともあり、みなさん外へと出かける機会も多かったのではないのでしょうか。

大型連休のある5月とは反対に6月は祝日のない月です。そのため、1ヶ月をいつもより長く感じてしまうかもしれません。上手に息抜きの時間を作りながら、過ごしていきましょう。図書館も息抜きするのに、ちょうどよい空間です。ゆっくりしに来てください。「ちょっと疲れたな」という気持ちをほぐせるお薦めの本を用意して待っています。

そして、いよいよこの週末は体育大会です。各団の健闘と活躍を祈っています。頑張ってください！

創設者の言葉を知る*

159-デ『ウォルト・ディズニー 夢を叶える言葉』 主婦の友社

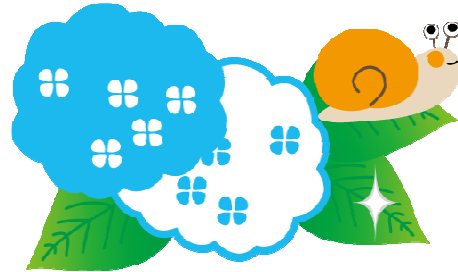
東京ディズニーランドが開園して30周年を迎えました。ディズニーのテーマパーク、そして、ミッキーマウスは世界中の人々に夢を与え、そして、愛されてきました。その生みの親であるウォルト・ディズニーの名言集です。ディズニーの様々な仲間たちのイラストと共に、ウォルト・ディズニーの残したたくさんの言葉が並びます。夢を叶えるために大切な心の在り方を教えてくれているように感じます。英語の対訳も載っているので、両方の言葉で読んでみてください。

ホッと癒しのひととき*

487-カ『水中散歩』 鍵井 靖章 著 パイ インターナショナル

この写真集を開くと、「青い海の中はこんなにカラフルな世界が広がっているのか！」と驚いてしまいます。思わず笑顔になってしまう魚たちの表情やいつまでも眺めていたくなるような神秘的な美しさがページをめくる度に現れます。

家の中にいながら、本の題名どおり海中散歩を楽しめます。色とりどりの海の生き物たちが暮らす世界を覗き見て、癒しのひとときを過ごしてください。見たことのない生き物も多いですが、最後に各ページの生き物の名前と撮影場所が記載されているので、興味を持ったページをチェックしながら読むとよいでしょう。



ムンク生誕150年

今年はノルウェー出身の画家エドヴァルド・ムンクが生まれてから150年という節目の年です。ムンクの代表作といえば「叫び」ですが、他の作品の名前も挙げられるでしょうか。生誕150年ということで、注目を浴びている今は、ムンクという画家について知るのにちょうどよい機会です。図書館にも、ムンクの作品集やムンクの生涯について書かれた本があります。

また、東京の丸の内にある出光美術館では1年ごとにムンクの作品が3点入れ替えられ、展示されています。ムンクの本物の作品に触れたいと思った人におすすめです。

723-ム『ムンクの世界』 新人物往来社 〓 編 新人物往来社

手に取って読みやすい大きさのムンクの画集です。収録されている作品数が充実していて、コンパクトながらもかなり見応えがあります。

代表作『叫び』は1枚だけでないことを発見したり、初期から晩年にかけての色調やタッチの変化に気がついたりムンクを詳しく知らない人も様々な発見を楽しむことができます。また、要所ごとに載っている解説には、ムンクの画家としての歩みが書かれており、これを絵と合わせて読むことで、その時のムンクの心情や暮らしが作品にどう反映されているかを知ることができます。

今年も“おはなし会” やります!!

今年も図書館では、図書委員と有志による“おはなし会”を開催していきます。桔梗祭や三送会での発表も行っているのですが、2・3年生にはもうおはなし会がどんなものなのかをわかってもらえているかと思いますが、ここで1年生のみなさんに秋草のおはなし会を紹介します。

秋草のおはなし会は、高校生に楽しんで聞いてもらえる作品を選び、発表しています。絵本の読み聞かせはもちろんのこと、文学作品の朗読や群読、戯曲など毎年、趣向を凝らし、様々な作品に挑戦しています。

おはなし会メンバーは随時、募集しています。おはなし会を見て、「自分もやってみたいな」と思った人は、ぜひ有志としても参加してください。

まずは今年度、第1回のおはなし会を見に来て、おはなし会のおもしろさを感じてほしいと思います。今回からデビューする新メンバーの応援もお願いします。

★おはなし会★

日時：6月11日(火)

13:30~14:30

場所：図書館



世界を旅する12ヶ月 ～イギリス～



「世界を旅する12ヶ月」第2回目はイギリスです。普段、私たちは「イギリス」と呼んでいますが、正式名称はグレート・ブリテン及び北アイルランド連合王国と言い、イングランド・スコットランド・ウェールズ、北アイルランドの4つの国から成っています。首都は昨年、オリンピック開催地にもなったロンドン。

バッキンガム宮殿や大英博物館、グリニッジ天文台など多くの名所がある他、指輪物語やハリーポッター、ナルニア国物語、不思議の国のアリスなど、世界的な名作ファンタジーが誕生している国でもあります。そんなイギリスの様々な分野にスポットを当て本を紹介します。

世界を代表するラブストーリー

932-シ『ロミオとジュリエット』 シェイクスピア || 著

「花の都ヴェローナに…」と始まるこの戯曲の舞台はイタリアですが、書き上げたのはイギリスルネッサンス期を代表する作家ウィリアム・シェイクスピアです。誰もが聞いたことのある話ではあっても、意外と本を読んだことのある人は少ないのではないのでしょうか。『ロミオとジュリエット』は演劇のみならず、交響曲やオペラやバレエ、映画にドラマにミュージカルと幅広くそのストーリーを題材として取り上げられ、いろいろな形で表現されて目にする機会が多い作品ですが、本だとセリフと書きでできた慣れない文章に気後れしてしまう人も多いでしょう。そこでお勧めなのが、セリフは原作そのままという、ディカプリオのでていた映画を見てから、本を読んでみること。登場人物を生き生きと想像しながら読めばあっという間です。ロミオの初恋やジュリエットの年齢には、仰天！

ミステリー界の女王

933-ク『オリエント急行の殺人』 アガサ・クリスティー || 著 早川書房

中東での仕事を終え、寝台車「シンプロン・オリエント急行」でロンドンへの帰路についた私立探偵ポアロ。その行程は三日間のヨーロッパ横断の予定だったが、オリエント急行は旅の途中、雪溜まりに突っ込んで動けなくなり立ち往生してしまう。そしてその夜、停車した列車の中で殺人事件が起こった。容疑者として挙げられたのは、同じ車両に宿泊していたあらゆる階級と国籍の乗客と車掌たち。いくつもの手がかりが発見されながらも、誰もが犯行時間の強固なアリバイを持っており、捜査は難航する。

しかし、名探偵ポアロの手にかかれば、どんな難事件もお手のもの！ラストには見事ポアロの推理から衝撃的な真相が明かされます。その真相だけでなく、真相が明かされたのちの展開にも衝撃を受けます。ミステリーでありながら、人としての心の在り方を考えさせられる奥深い作品です。

紅茶の国で学ぶマナー

596-フ『もしも、エリザベス女王のお茶会に招かれたら？』 藤枝 理子 || 著 清流出版

書名のとおり、とんでもない“もしも”想定のもと、英国式アフタヌーンティーを楽しむために知っておくべきポイントがまとめられた1冊。「エリザベス女王のお茶会に招かれる機会に恵まれることなんて…」と思いながら読んでいたはずなのに、気がつく頃には華やかなティー・パーティーの様子が浮かんで来て、本当に自分が招待されたようなドキドキワクワクを感じてきます。また、ティー・パーティーは交流の場として楽しむだけでなく、きちんとマナーを身につけている人物かどうかを判断される場でもあるので、覚えておきたい決まりごとがたくさんあります。ティーフーズの食べ方やカップの持ち方を始め、招待者への様々な心遣いといった日常生活にも活かせるマナーまで細かにレクチャーしてくれているので、しっかり読んでいつか来る日のために覚えておきましょう。

豊かな自然が広がる場所

293-ツ『英国で一番美しい村々 コッツウォルズ』 辻丸 純一 || 文・写真 小学館

コッツウォルズは、イングランド中央部に広がる標高300m以上に達する丘陵地帯です。「地上の楽園」とも呼ばれるこの地帯には豊かな自然、歴史を感じさせる建築物があちこちに多く残っており、その風景はまるで絵画のような美しさです。

シェイクスピアが生まれた街やお風呂(バス)の語源となった街など、コッツウォルズの中にある様々な名所が紹介されています。ハリーポッターのロケ地レイコック村も載っていますので、ハリーポッターファンの方は要チェックです。また、写真のページが多く、写真集として読んでも楽しめます。放牧された羊やそれを追う牧羊犬のいる風景、いつまでも眺めていたくなる庭園など、写真を目で追っていただけでも旅気分を味わえ、心が和みます。

図書館司書の「今月はこの本を読みました」

4月に紹介した『深夜特急』はその後、順調に3巻、4巻と読み、5巻をこれから読もうかというところでした。見事にハマってしまいました。

そして、今月は中田永一さんの著書『吉祥寺の朝日奈くん』(913.6-ナ 祥伝社)を読みました。書名になっている『吉祥寺の朝日奈くん』ほか、4つの中編が入っています。どれもいい味を出していておもしろかったのですが、私が一番気に入ったのは『交換日記はじめました！』という作品です。交換日記の内容がそのままストーリーになっているのに気がつかず、始めは「いつ本編が始まるんだろう」と思いながら読んでいました。とあるカップルが始めたふたりだけの秘密の交換日記、のほろほろ、アクシデントが度重なり、恋敵や家族兄弟、まったくの他人の手に渡ってしまい、その人たちも交換日記に参加していくというおもしろい展開が待っています。「この交換日記は一体どうなるんだろう」と心配にもなりましたが、この交換日記の放浪の旅が新しい出会いを生んでいきます。-

